戦争と平和の資料館
ピースあいちニュース
第3号
2008年4月1日発行
〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222
発行：戦争と平和の資料館ピースあいち　http://peace-aichi.com/　【定価:30円】

あの戦争から63年
戦時のモノが語りはじめる

「ピースあいち」が昨年の5月4日に開館。12月には来館者が一万人に達した。今年の一周年頃には12,000人を超えよう。収集・保存している戦時資料はおよそ3,300点、このうち約350点ほどが展示してある。開館後も100点もの資料が寄贈された。この間の経過を振り返ってみた。

■さまざまな企画展とイベント

この「ピースあいち」は、加藤たづさんという篤志家のご芳志によって設立された。設立に当たっては、開設資金を県民・市民からの浄財に仰いだが、お陰さまで目標額の3,000万円に達した。その後も寄付は絶えず、450万円を数える。

開館当初はマスメディアによる報道の効果もあって来館者が相次いだ。来館者の流れが止まらないためには話題作りが必要と考え、企画展をはじめ幾つかのイベントを計画した。企画展は、金城学院中学・高校生による「祖父母に聞いた戦争体験－15歳の語り継ぐ戦争展」、「ハンナのかばん展」など8件を開催した。

イベントは、「ぞうれっしゃがやってきた」と題するお話と紙芝居、「戦争体験を語る会」、「朗読と歌の夕べ」などを催した。「戦争体験を語る会」は10回にわたるシリーズで、ちょうど夏休みの時期に当たり、新聞・テレビで報道されることもあって、回を重ねるごとに参加者が増えていった。

■ボランティアに支えられる

開館に先立って運営ボランティアを募集したところ、62名の応募があった。その後、多少の出入りがあり、今は事務局を含め70名ほど。専従の事務局次長の他に、ボランティアが5人、NPOの事務局メンバー2人が毎日、「ピースあいち」に詰めて、受付や館内ガイドに当たっている。この他、戦時体験を語ったり、展示のガイダンスをしたり、事務方の仕事を手伝ったりしている。

昨年の9月から12月にかけては、「沖縄から戦争と平和を考える」と題する8回連続のセミナーを開催した。このセミナーで学んだ方々を中心にプロジェクトチームを作り、今年5月に予定している開館一周年記念展の展示準備に入っている。

■モノが語りはじめる

当館の入口受付でお渡ししているアンケート用紙には、「平和のメッセージ」を記していただく項目がある。多くの方々がそれぞれの思いを綴っておられる。既に1,100通を超えるが、その一部は館内ロビーのボードに掲示してある。

先の戦争を知っている世代は年々少なくなっていく。戦争の恐ろしさ、愚かさ、平和の尊さを伝える人がいなくなる。戦争体験の風化である。ただし、モノは覚えている。空襲による被害の記録写真、戦時に使われた生活資料・防空のための実物資料である。

モノは語らない。しかし、展示室にしばらく佇んでいると、モノが語りはじめる。「平和のメッセージ」を綴った方たちは、この声を聴いたに違いない。

さまざまな工夫を凝らし、来館者に戦争体験を語るボランティア

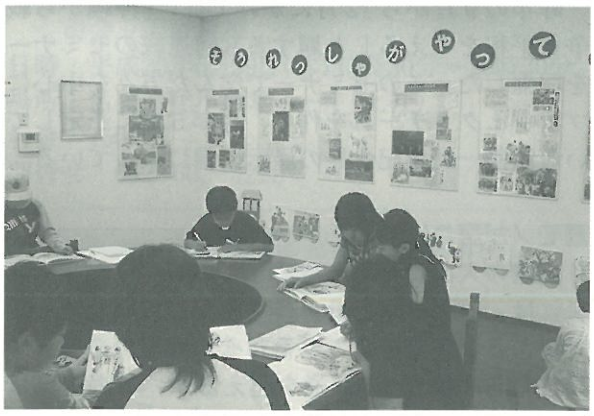
多彩なイベントの数々

「ピースあいち」を見学された方が再びここを訪れることは、そう多くはない。リピーターが期待できないとするならば、話題作りをすることが肝要だ。そこで当館では、企画展をしたり、講演会や朗読の会、「戦争体験を聞く会」などを催している。

●ぞうれっしゃがやってきた

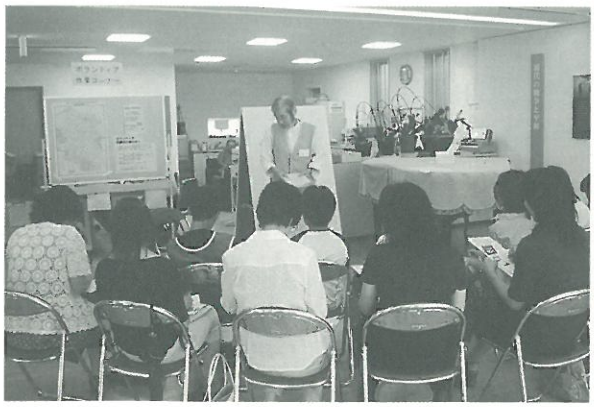
昨年5月のオープニングの記念イベントの一つとして「象列車」のお話と朗読の会がある。戦時、東山動物園の猛獣は射殺されたが、「マカニー」と「エルド」と呼ぶ2頭の象は残された。戦後、この象を見るための列車が仕立てられ、全国から大勢の子どもたちがやってきた。

こうした話を絵物語にしたのが小出隆司さん（淑徳大学准教授）である。こうした経緯を小出さんが語り、紙芝居を上演した。



●戦争体験を聞く会

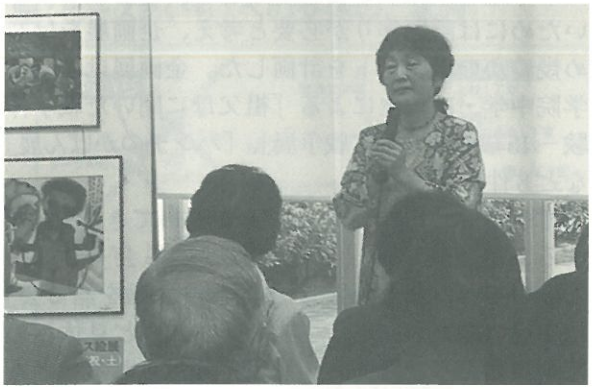
8月に入って、「戦争体験を聞く会」を開いた。これは10回に亘るシリーズで、先の戦争を知っている世代から戦時の生々しい話を聴いた。列挙すれば、次の方々である。栗本伸子さん（敗戦時は韓国のソウルに在住）、加藤清高さん（暗号兵として中国戦線を転戦）、杉山常男さん（ニューギニアのジャングルをさまよい奇跡的に生還）、杉村公男さん（戦時中の子どもの暮らし）、佐々木あきさん（豊川海軍工廠に動員され、九死に一生を得た）、香村克巳さん（岡崎で空襲を体験）、小笠原淳子さん（学童疎開の経験者）、伊藤等さん（豊川海軍工廠で遺体の処理に当たる）、中山賀子さん（学徒動員で軍需工場で働く）、斎藤孝さん（軍需工場と清洲飛行場に学徒動員）。



●企画展と講演会

企画展の当事者の講演会も幾つかある。8月には「ハンナのかばん展」と同名の本の訳者である石岡史子さん（NPO法人東京ホロコースト教育資料センター代表）の話を聴いた。

10月には「コスタリカ賛歌ガラス絵展」でのガラス絵作家の児玉房子さんの講演会。コスタリカは軍隊を持たない国。児玉さんは、この国を5回も訪ねている。コスタリカの人々の生活を語り、軍事費を教育費などに回していることを紹介し、平和の尊さを訴えていた。



児玉房子さん講演会

●語りと歌の夕べ

「ピースあいち」に企画グループ「球（きゅう）の広場」（代表・いのこ福代）というのがある。ここが企画した「秋、語りと歌の夕べ」を11月に催している。出演は、いのこ福代（俳優）・寺本久美子（声楽家）・鳥居美江（俳優）・広田昌代（声楽家）・西尾由希（ピアニスト）の皆さん。茨木のり子の「わたし

球の広場

が一番きれいだったとき」、宮澤賢治の「星めぐりの歌」など十数曲が披露された。秋も深まった季節、しっとりとしたステージであった。

また2月には俳優の天野鎮雄さんの朗読会が行われ、芥川龍之介の「羅生門」「鼻」をじっくり聞かせた。

草の根の交流会など

京都に「立命館国際平和ミュージアム」(以下「ミュージアム」という)というのがある。大阪の「ピースおおさか」と並ぶ、日本の代表的な平和資料館である。年が明けての2月に、この「ミュージアム」の「平和友の会」のメンバー62名が来館、当館のボランティア22名と交流会を開いた。「ミュージアム」の館長・安斎育郎さんと当館の野間美喜子館長との対談ののち、相互にボラティア活動を語った。

また、映画による学習会も持った。「日本国憲法」「チャップリン」と新旧取り混ぜてのフィルムだった。この他、ボランティアの第2次募集に伴う「説明会」、展示ガイドのための「研修会」、市民の持ち込みによる催し物、「あいち女性9条の会の集い」「名東区原水協・平和の集い」など多彩なイベントが催された。

寄稿

戦争にまつわる思い出

愛知県心身障害者コロニー名誉総長
篠田達明

愛知県一宮市で生まれた私は数え4歳の1940年、皇紀2600年記念のとき、天皇のお召し列車が通るというので東海道線の踏切に行き、日の丸の小旗をふって見送った記憶がある。静岡市の幼稚園に入った頃は軍国主義教育の真っ只中。「ボクハ軍人大好キヨ　今ニ大キクナッタナラ　勲章ツケテ剣サゲテ　オ馬ニ乗ッテ　ハイドウドウ」と大声で歌い、国民学校に入学すると「今日も学校へ行けるのは兵隊さんのおかげです　国民のために傷ついた兵隊さんよ　ありがとう」と歌った。

毎朝の朝礼では「伊勢の皇大神宮にむかって最敬礼！」、ついで「宮城にむかって最敬礼！」と深々とおじぎをした。軍服姿もりりしい大元帥陛下が白馬にまたがり皇軍を閲兵される御真影を拝み、「日本は神国、本土決戦ではかならず神風が吹く」という隣組のおじさんたちの話を固く信じた。

「一億総火の玉」「くたばれミニッツ、マッカーサー」とどなっていた国民学校1年生のとき、B29の静岡大空襲に見舞われた。焼夷弾のザザッーと落ちる音と燃えあがる炎の中を私たち一家は水に浸した布団をかぶって逃げ回り、恐怖の一夜を過ごした。避難先の清水市でも米艦から艦砲射撃を溶びせられ、またもや家は丸焼けになった。「天皇さん、どうして神風を吹かせなかったの？」幼い私はうらめしく思ったものだ。

8月15日、ガーガーと雑音だらけの玉音放送で戦争が負けたことを知った。それからはひもじい毎日がつづき、サツマ芋や豆かすばかりの食事でやせ細った。小学6年の兄は栄養失調で死んだ。その頃、天皇と進駐軍総司令官マッカーサー元帥が並んだ写真を見て、私の胸の中にあった陛下の偶像が粉々に砕けたのはいまだに忘れられない。

国際的な視点で企画展を開催（2007年7月～2008年2月）

オープン以降、様々な形で「平和」を表現し考える場となった企画展をご紹介します。

■15歳の語り継ぐ戦争

7月3日（火）～9月1日（土）

金城学院中学・高校生の皆さんが、それぞれの祖父母の戦争体験を聞きとり、平和活動の発表展示をした。丁寧にまとめられた談話と感想からは生徒たちが真剣に取り組む様子が感じられた。

■青い目の人形展

7月21日（土）～8月11日（土）

日米友好の願いを込めて約80年前に米国人宣教師から日本各地の小学校や幼稚園に贈られたが、太平洋戦争中に「敵国人形」としてほとんどが焼かれてしまった。企画展では、この地方にわずかに残された「青い目の人形」が展示された。愛くるしい人形はもの言わずとも、青い目で平和を見つめているように思えた。愛知青い目の人形友情交流会代表幹事・夏目勝弘氏の主催で行われた。

■ハンナのかばん展

8月14日（火）～9月1日（土）

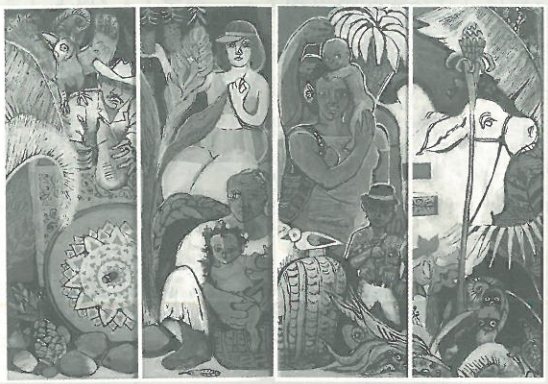
第2次世界大戦中アウシュビッツ収容所で13年の短い生涯を閉じた少女ハンナ。当時150万人ものユダヤ人の子どもたちが殺され、彼女はその一人だった。ハンナが残した茶色いかばんは私たちにホロコーストを伝えることとなった。この物語がパネル展示された。

8/18（土）にはNPO法人ホロコースト教育資料センター代表・石岡史子さんが「いのちの大切さを考える」と題して講演。夏休み中で小中学生が熱心に聞き入っていた。

■コスタリカ賛歌ガラス絵展

10月2日（火）～11月3日（土）

中央アメリカのコスタリカ共和国は、日本と同じ平和憲法を持つ国。軍隊のない国に共感したガラス絵作家・児玉房子さんはコスタリカに滞在して町や人や暮らしぶりを美しいガラス絵にする。鮮やかな色彩で描かれたガラス絵約60点の展示と、DVD「軍隊を捨てた国」（早乙女勝元企画）が上映された。10月27日（土）には児玉さんの講演「コスタリカの人びととふれあって」と、ピースあいち朗読講座発表のミニ朗読会が行われた。児玉さんの親しみやすい話しぶりは、参加者にコスタリカと平和憲法への思いを深く印象付け、和やかな雰囲気の会となった。



■寄贈品展

第1回　11月14日（水）～30日（金）

「軍隊生活」兵士から家族への手紙、千人針など

第2回　12月5日（水）～21日（金）

「国民生活と学校生活」恩賜食器、国民愛唱歌など

第3回　2008年1月9日（水）～2月1日（金）

「遺品 特別展」

（P7に掲載）

■池田初子デザイン画展

2008年2月21日（木）～3月20日（木）

服飾研究家・池田初子さんのデザイン画は、明治から平成の女性の装いの変遷から時代をふり返る。戦時下には、おしゃれする自由など考えられなかった。戦争からは美しさも幸せも生まれない。

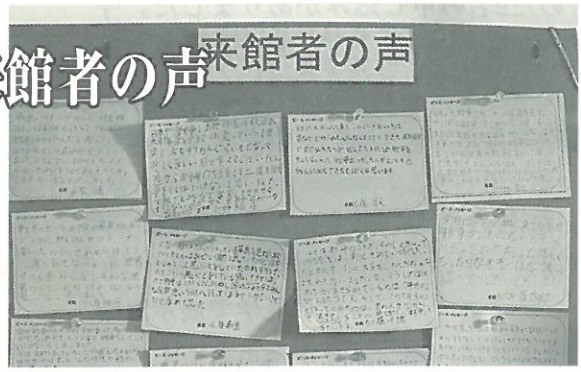
寄稿

愛と平和のすばらしさを舞台で

戦争体験を語れる年齢の人が少なくなってまいりました。黙ったまま、この世を去ってはあまりにも無責任です。でも、人にはそれぞれ異った表現方法を持っています。多才であれば、あの手この手があるでしょうが、私の場合はただ一つ、自分が感動した作品を通して、「愛」「平和の素晴らしさ」を、そして時々立ち止まって疑問を持ってみるということを残して逝きたいと思っています。

俳優
山田 昌

平和への思いを綴る・来館者の声



ピース愛知の来館者に配布しているアンケート用紙。これまで1100通を超える多くの方から展示を見た感想や戦争の悲惨さ、平和の大切さを訴える声が届けられています。その中から幾つかを紹介します。

せんそうにでるのはいやだな

7歳（小学生）

せんそうにでるのはいやだな。せんそうにでている人は、かわいそうだな。なんでせんそうなんかあるのかな？わたしはせんそうがきらいだな。きっとみんなきらいだよ。つるはどうしてへいわのつるなのかな？　わたしだったらせんそうにいきたくないな。たべものがすくなくてかわいそうだな。すこしでもいいからあげたいな。

今日見たこと、知ったことを家族や友達にも教えていきたい

13歳（中学生）

戦争時の写真などを見て本当に残酷だと思います。絶対に戦争は起こってはいけないものです。そういう今にも世界のいろんな場所でたくさんの人々が戦争によって殺されています。この1秒間にも人が死んでいますから、本当に1秒でも早く戦争を終わらせて平和にならなければいけないと思います。戦争で人々が幸せになることはありません。

平和にするためにはたくさんの人に戦争のこわさを知ってもらわなければいけないと思います。今日見たこと知ったことを、まずは家族や友達にも教えていきたいです。

展示されている写真を見たら涙が止まりませんでした

28歳（主婦・学生）

母となった今、改めて戦争という愚かな行為を世の中からなくさなくてはという強い危機感を覚えました。核問題の一研究者であるはずなのに、展示されている大きな写真を見たら涙が止まりませんでした。研究の原点に立ち戻った気持ちです。新たな気持ちで再び取り組んでいこうと思っています。

歴史を正しく学び、中国や朝鮮、東南アジアの人々に対して心の痛みを

64歳（男性）

「焼き場の少年」の悲しみに耐える目と口元、重慶の無差別爆撃、民衆の死の写真が胸を打ち心臓が痛くなりました。原爆投下は「仕方なかった」という心が、中国や朝鮮の人々の悲惨な姿に思いを致すことができない心と重なります。日本で生まれ育ったものは若い人もみな歴史を正しく学び、過去の事実を認め、中国や朝鮮、東南アジアの人々に対して、心のなかにほんの少しだけでも心の痛みを持つべきではないだろうか。

金城中高生の企画は立派です。こんな企画をたくさんの学校がやって、歴史の一場面と直面して欲しい。

「ピースあいち」を支えるボランティア

「広島や長崎に原爆が落とされたのは本当の話ですか？」「本当に日本は戦争をしていたのですか？」こんな子どもたちの意外な質問に、ボランティアは驚かされます。「戦争」が世代を経るにつれ遠ざかっています。戦争の記録を語り継ぎ平和を願う、戦争と平和の資料館「ピースあいち」のボランティア活動をご紹介します。

70名（16歳から86歳まで）が活躍

現在ボランティアは約70名。第2期ボランティア募集は2月16日に締め切りが終了して、高校生を含めた9名の申し込みがありました。今回は若干の募集ということで、地元の名東ニュースとホームページに掲載しました。3月に説明会と研修会を行い、4月から活動していただきます。

開館日は5名のボランティア、運営委員、事務局員で運営しています。運営委員といっても全員ボランティアです。学校の見学で展示説明案内や戦争体験談の申し込みがあると、そのつどボランティアを追加して手配します。1ヵ月の当番は月1回から月3回程度で、都合の悪いときは同じ曜日のチームの中で融通しますが、調整が難しいときは他の曜日のボランティアが協力をしてくれます。

仕事は、受付、展示室案内、軽作業、掃除など多岐にわたります。開館前は担当内容や団体見学がある場合などの連絡事項を確認し、閉館後にはその日あったことなどを話し合います。来館者の中にはご自身の戦争体験談を話したい方がいらっしゃって、それをボランティアが聞き役となり、貴重な情報を教えていただいたりしています。

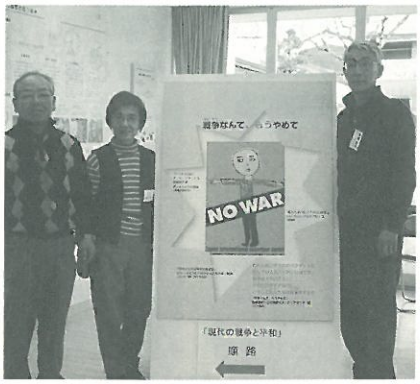
ボランティアの年齢層は最年少16歳から最高齢86歳までと幅広く、男女別では男性がやや多いです。

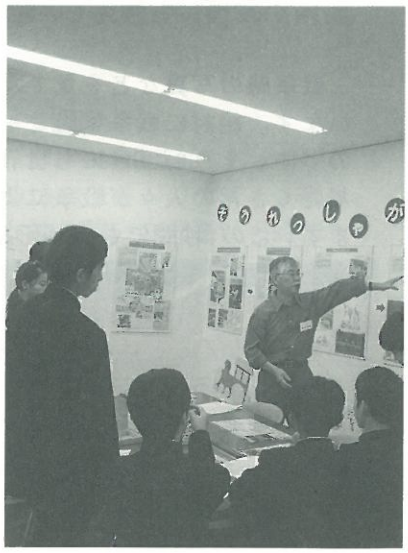
展示説明員の養成講座を連続開催中

3月からはボランティアを対象にした展示説明員養成講座が始まりました。館内の4つの展示「あいちの戦争」「戦争の全体像－15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」に沿って、月に1回、各展示につき2回ずつ合計8回、8ヵ月間にわたる講座です。無理することなく、なるべく大勢のボランティアが参加できるようにという理由です。

展示説明員の希望者には講座終了後に実習があります。勉強会はもっと知識を深めたいと希望する人の場として、展示説明員の希望者と一緒に受講しています。受講者は多数で、ボランティアの方々の意欲の高さがわかります。

学校からの見学は展示説明の希望が多く、今後、展示説明員養成講座を終了したボランティアの活躍が期待されます。また、学校の授業で戦争体験を語って欲しいとの依頼も多く、こうした要望にはボランティアが学校に出かけ出張授業を行っています。





館長から

ピースあいちの2年目に向けて

館長　野間美喜子

2月9日午前、今年初めて名古屋の空に降りしきった雪は、中部空港に赤や青の尾翼を立てて停まっている旅客機をみるみるうちにぼかし絵のように美しくみせた。この日、ピースあいちの沖縄調査団一行8人は、4月末から開催予定の沖縄特別展の準備のために、満を持して沖縄へ乗り込むべく、空港に集合していた。出発の遅れを告げるアナウンスに、予定通り飛べるかなと心配したが、幸い大きな遅れもなく、一行は、間一髪、雪の名古屋を脱出し、沖縄へ向かった。

嘉手納基地、普天間基地、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、平和の礎、摩文仁の丘、チビチリガマ、糸数壕、南風原文化センター、佐喜眞美術館などを巡り、さらに平和研究所に大田昌秀元沖縄県知事を訪ね、沖縄国際大学へ行って石原昌家先生に会うという超過密スケジュールであったが、沖縄戦について新しい発見をし、沖縄の抱えている問題の大きさに触れ、展覧会に向けての資料提供や協力の依頼もメドをつけた。疲れたけれど充実した2泊3日の旅を終え、11日夕刻、一行は雪がすっかり消えた名古屋へ戻ってきた。

思えば、去年の2月は、展示パネルの仕上げの時期であり、開館に向けて「あれもこれも」の日々であった。今年は、新しい仲間も増え、日々の運営もまずまず軌道に乗り、企画も充実しつつある。財政的にはまだまだ弱体であるが、来館者をはじめ多くの人たちの支援や励ましもある。

しかし、開館2年目になる今年は「ピースあいち」にとって真価が試される年でもある。沖縄特別展をはじめ多くの企画を成功させ、過去を学ぶことが今の平和を考えることに繋がり、「ピースあいち」が平和に向けて行動する手がかりの場になれるかどうかが問われる年になるだろう。誰かが「365日文化祭をやってるように忙しい」と言ったが、これからも、みんなで終わりのない「平和のための文化祭」を、できれば楽しくやっていきたい。

ピースあいちの沖縄調査　摩文仁にて

新たに寄せられた戦時の品々－3回にわたる寄贈品展

昨年11月14日から今年2月1日まで三回に分けて寄贈品展を開催しました。これはスペースの関係上、常設展示できない資料を期間限定で展示したものです。

「別れの宴」で談笑する特攻隊員たちの写真や特攻に出かける前に航空基地から両親宛に出した遺書に涙する女性もいれば、高熱で変形した広島原爆被災食器に驚いたり、鉄帽や軍帽を実際にかぶって見せたりする子どもたちもいました。中でも、満州で終戦一日前に爆撃に会い、全身に傷を負い4日後に亡くなった兵士の病床日誌、死亡告知書等には皆さんが食い入るように読んでいらしたのが印象的でした。

「でもこの方はまだいいわ。死亡通知書と共に受け取ったのは白木の箱の中の紙切れ、石でしたよ。」と父や兄弟とか肉親の方を失った人々の言葉も忘れられません。展示を見に来た人から「私の家にもある。」と国債やら貯金通帳などの寄贈もあり、寄贈品展はおおむね好評でした。

今後も水曜日は図書、その他のものは火、木曜日に寄贈品の受付をしていますのでよろしくお願いいたします。

ピースあいち開館1周年記念企画

昨年5月4日（金）にオープンして、もうすぐ1年。スタッフ、ボランティアとも、さまざまな思いを込めて、記念企画を行います。1周年にピースあいちが選んだテーマは「沖縄」です。

Ⅰ．特別展「沖縄から戦争と平和を考える」

第１展示　沖縄戦の実相とその継承
第２展示　沖縄の戦後、今、そしてこれから‥

期間・平成20年4月29日（火）～6月28日（土）
（日曜日・月曜日休館）
場所・ピースあいち3階展示室
料金・200円（小中高生無料）
他に入館料大人300円子ども100円

Ⅱ．沖縄民謡と講演の夕べ「沖縄からのメッセージ」

第１部　沖縄民謡　大城節子
第２部　記念講演「沖縄戦と基地問題を考える」
大田昌秀（元沖縄県知事）
司会　天野鎮雄

日時・平成20年5月29日（木）18時30分～20時30分
場所・名東文化小劇場ホール（上社）
料金・1500円
問合せ・052-602-4222

Ⅲ．1周年記念イベント

ピースあいちを舞台に、さまざまなイベントを企画中。

●プレ企画
4月8日（火）～19日（土）**「浅見裕子沖縄写真展」**
記念講演会「美ら海を守る人々」
4月12日（土）午後2時から3時

●4月29日（火・祝）11:00～11:30
古田律子ミニコンサート「おばぁの唄」
沖縄物産展　オープンカフェ

●5月3日（土）午後4時～5時
沖縄・平和コンサート　夏目久子・石原廣城ほか

●5月15日（木）沖縄本土復帰記念
「復帰運動に携った人たちのお話を聞く会」

その他に
戦争体験証言の朗読会／絵本の読み聞かせ／沖縄関連の映画会など

ピースあいちの運営を支えてください。

ピースあいちの運営資金は、正会員・賛助会員の会費収入と寄付金によってまかなわれています。

ぜひ会員になって、一緒に「ピースあいち」を支えてください。

○正会員は無料パスの特典
＊お申込みは郵便振り込み用紙で、またはピースあいちにて直接お申し込み下さい。
＊法人向けには、「ピースあいち支援団体」になっていただき、毎年一定額（1口1万円）のご寄付をお願いしています。

■「ピースあいち」への交通のご案内

【ピースあいちの利用案内】

●開 館 日　火曜日～土曜日（祝日の場合も開館）
●開館時間　午前11時～午後４時
●休 館 日　日曜日・月曜日・年末年始
●閲 覧 料　大人 300円　小中高生 100円
●閲覧料を頂くのは、2階の展示室です。1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書のライブラリーがありますが、無料でご自由に閲覧できます。
●団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
●3階の企画室の使用料については、事務局にお問い合わせ下さい。
●駐車場がありませんので、公共交通機関でおいで下さい。

●編集後記●

神国日本（かつてのこのくに）、硝煙弾雨（しょうえんだんう）、前途有望（あまたのわかもの）、屍山血河（しさんけつか）。
侵略野望（しんりゃくやぼう）、文武百官（ぶんぶひゃくかん）、奢侈文弱（しゃしぶんじゃく）、上意下達（じょういかたつ）。
日常茶飯（にちじょうさはん）、長蛇之列（ちょうだのれつ）、純真無垢（じゅんしんむく）、集団疎開（しゅうだんそかい）。
学徒動員（がくとどういん）、紅顔可憐（こうがんかれん）、草莽之臣（そうもうのしん）、戦戦恐恐（せんせんきょうきょう）。
叫喚地獄（きょうかんじごく）、鬼哭啾啾（きこくしゅうしゅう）、帰馬放牛（きばほうぎゅう）、艱難辛苦（かんなんしんく）。
往事茫茫（おうじぼうぼう）、曖昧模糊（あいまいもこ）、一念発起（いちねんほっき）、地平天成（ちへいてんせい）。
断簡零墨（だんかんれいぼく）、種種雑多（しゅしゅざった）、満身創痍（まんしんそうい）、瞑目沈思（めいもくちんし）。
順風美俗（じゅんぷうびぞく）、志士仁人（しし じんじん）、念願成就（ねんがんじょうじゅ）、大厦高楼（たいかこうろう）。
好機到来（こうきとうらい）、千客万来（せんきばんらい）、大同団結（だいどうだんけつ）、多士済済（たしせいせい）。
平和愛知（へいわあいち）、欣求浄土（きんぐじょうど）、前途遼遠（ぜんとりょうえん）、多事多難（たじたなん）。
朋友有信（ほうゆうあり）、善隣友好（ぜんりんゆうこう）。

（S）